

令和3年度 施設自己評価結果報告書

令和4年3月31日

学校法人蒲原学園
清水やぐらこども園

1. 本園の教育目標

目指す子どもの姿

- ・健康で明るい子 ・心豊かな子 ・自分の考えを持ち主体的に活動できる子
- ・体を鍛え、粘り強い子 ・適応力を身に付けて協調性に富んだ子

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

目標：心身ともに健やかな育成のため、豊富な経験を通して何事にも取り組む意欲を身に付ける

計画：感染症対策を徹底しながら、できる限りの行事を行い、子どもの育ちにつなげる。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果	取組み内容及び評価理由
感染症対策の徹底	A	毎日の健康観察・保育室の換気・密集をつくらない行事運営により、園内での感染拡大は防ぐことができた
職員の資質向上の促進	C	職員間で経験を持ちより、園内研修を行う予定であったが、感染拡大防止のため行う事ができなかった
保育環境の向上	B	絵本や備品が増え、子どもたちが行える遊びや学びが増えた。

※評価基準 A：充分達成 B：達成 C：成果が不十分 D：取組が不十分

4. 今後取り組むべき課題

園児数が増え、業務が複雑になってきている。様々な経験をもった職員が集まっている事の強みを創り出していくことが重要となる。

職員間の対話をもっと増やしていきたいが、感染症の事もあり、道半ばという感触である。今後はリーダーシップを持った職員を中心に、相乗効果のある対話を増やしていきたい。

令和3年度の報告

令和3年度に入っても新型コロナウイルスの流行は終わらず、いくつもの行事が中止になるような事態となってしまった。デルタ株は子どもには感染しにくい特性を持っていたため園内での感染はほぼ無かったが、年始から流行したオミクロン株は子どもへの感染力が強く、園児に感染者が出たり家族に感染者が出たりと、数度にわたってクラス閉鎖などの措置を取らざるを得なかった。オミクロン株の流行によって、活発に活動する事が感染リスクを高めてしまうという事態になり、数か月の間は「いかに感染しないか」を主眼に園運営をしていた事は、今となっては反省材料の一つである。

来年度もウイルスの性質、行政の施策、保護者の認識は次々と変化していくと思われる。子どもたちの安全を確保しながら、積極的な教育活動ができるように、方針を転換していこうと考えている。

それに加え、最近増加している「きになる子」の対策として、定期的にカウンセラーを呼び子どもたちを観察してもらう。保育者の教育方法の悩み相談や、小学校への接続や公立園での加配対応などに繋げる保護者カウンセリングも行っていく予定である。

5. 来年度に向けて

今年度も新型コロナウイルスの影響が大きく、たくさんの行事が中止になってしまった。来年度はどこまで規制が緩和され、子どもたちの活動が戻ってくるかわからない。

今年度は子どもたちの安全を第一に考え、リスク回避の方向性を取ってきたが、オミクロン株の流行により重症化しない傾向となった今、来年度は行事を再開する事を念頭において進行する。

6. 学校関係者からの評価

特に指摘すべき事項はなく、妥当であると認められた。

7. 財務状況

公認会計士による会計監査により、適性に運営されていると認められた。

8. 静岡市による監査結果

文書指摘事項はありませんでした。